

# 令和8年度 学校関係者評価報告書

学校名：あいち福祉医療専門学校

## 1 学校目標

- ・凡事徹底!! 不易流行!! S-S-K about Well-beingを目指すために、今こそ”学生を真中にした教育”を実践しよう!! 「みんなで仲良く楽しく」をモットーに仕事をしよう!!
- 1) 情報の共有・協働 2) 出席率98%超、退学率5%以内、進級率・卒業率92%超 3) 国家試験合格(資格取得)率90%以上、年度内就職率100%
- 4) 総定員充足率80%(352名)以上の確保 5) PT・OT科電子テキスト・モノグラフ運用/C・M科実習支援システム導入 6) MicrosoftTeams活用
- 7) 校友会運営協働 8) 学生会正式発足 9) C・PT・OT実習指導者研修会/PT・OT多職種連携他校間交流 10) 高・専接続が期待できる講座実現(C科初任者研修)
- 11) 実務者研修・認知症カフェ・総合確保基金研修(「健康プロモ」啓発研修)・出向ガイダンス・模擬授業・学校見学会の積極的受入
- 12) 新設学科(国際介護学科:1年課程)の開設 13) 関連外部団体とのかわり 14) 学園展開の海外との教育連携とおよびインターンシップ実施
- 15) 外国人留学生の積極的受入と教育力向上 16) 入学生195名(入学定員88.6%)【C:80, M:30, PT:35, OT:30, K:20目標】
- 17) A0エントリー者112名確保【C:25, M:24, PT:30, OT:28】 18) Webを有効活用した広報促進、OCリピーター確保
- 19) 経費削減、教育研究経費、管理経費の在籍数に応じた意図的削除 20) 養成施設指定規則に準拠する教育環境整備および管理の計画的実施
- 21) 学科改編及び組織改革検討 22) 業務見直しと効率化 23) 学校目標ロードマップ共有/各数値目標階層的把握 24) 情報の共有・協働が見える化

### 学校目標に対する評価・意見

- ・2026年度からクラス編成を見直し、日本人と留学生を分けたクラス編成にされたことで、よりレベルの合わせた授業ができるようになり、留学生の理解度を把握しやすくなり、留学生の国家試験合格率UPを大いに期待しています。
- ・少子化、国際化等、社会全体が変化する中で「人として本当に大切な仕事をする人を育てる」。そのことに合った目標だと思います。先生方の意識、取り組みも素晴らしいと思います。
- ・2025年度のPT国家試験の合格率が落ちているが、今までのやり方+基礎学力が低い学生への対応策を期待しています。
- ・全体的に退学率の減少につながったのは、教員の先生方や関係者の精神的なフォローがあったためだと思いますので、今後も継続していただけたらと思います。
- ・色々な取り組みが実を結び学生の確保になると良いと思います。今後もあいち福祉医療専門学校の特色をアピールできると良いと思われます。
- ・少子化による学生確保の難しさや、現場の人材不足などさまざまな課題があると思います。現場が求める人材と、学校教育との連携をさらに深め、福祉・医療で活躍できる卒業生を育てていただける様期待します。
- ・開校から20年以上の歴史を重ね、多くの卒業生を輩出し地域社会において福祉・医療の分野で重要な役割を果たし続けることができるよう、引き続きご発展をお祈り申し上げます。しなしながら、来年度から精神保健福祉学科が募集停止となることで、非常に残念に思っています。私自身も、先輩作業療法士(OT)として、何かお力になれることがあれば、微力ながらお手伝いさせていただきたいと考えております。今後とも学校の発展と学生の皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます
- ・認知症カフェや地域貢献活動の受入れは、地域とのつながりを大切にする姿勢が感じられ、大変良いと思います。今後も活動内容を広く発信することで、地域との連携がより一層深まることを期待します。
- ・社会貢献を前提とした、素晴らしい目標だと思います。
- ・全世代に対応できる人材の要請
- ・多職種連携の視点と問題解決ができる人材の要請(地域包括ケア)
- ・社会に貢献できる人材の育成
- ・介護と医療の連携をもっと強固に進めては如何か(介護(生活)を基礎とした進路)
- ・介護と予防の考えを、確固たる特徴をもった学園運営は如何か(予防と生活を中心とした教育)

## 2 学校自己評価報告書について

| 学校自己評価報告書基準     | 学校自己評価報告書についての評価点の平均 |               |             |
|-----------------|----------------------|---------------|-------------|
|                 | 自己評価の結果が適切か          | 改善に向けた取組みが適切か | 今後の改善方法が適切か |
| 基準 1（教育理念・目標）   | 3.9                  | 3.7           | 3.7         |
| 基準 2（学校運営）      | 3.9                  | 3.8           | 3.8         |
| 基準 3（教育活動）      | 4.0                  | 3.7           | 3.8         |
| 基準 4（学修成果）      | 3.8                  | 3.7           | 3.8         |
| 基準 5（学生支援）      | 3.8                  | 3.6           | 3.8         |
| 基準 6（教育環境）      | 4.0                  | 3.8           | 3.8         |
| 基準 7（学生の受入れ募集）  | 4.0                  | 3.9           | 3.9         |
| 基準 8（財務）        | 4.0                  | 3.7           | 3.7         |
| 基準 9（法令等の遵守）    | 4.0                  | 4.0           | 4.0         |
| 基準10（社会貢献・地域貢献） | 4.0                  | 4.0           | 4.0         |
| 基準11（国際交流）      | 4.0                  | 3.7           | 3.8         |

## 3 今後の改善意見

- ・介護福祉士の経過措置が更に5年延長されたことは、大変喜ばしいことだと思います。しかし、最後の延長と捉えますと、留学生在留資格の所得が不確実な介護分野を選ばなくてはならないかが不安材料です。よって、日本人学生の獲得を一層力を入れていく必要が出てくるかと思います（「未来のプロフェッショナル体験デイ」のような企画）。また、今度、経過措置が終了してしまうと、留学生の合格率が上がらないと法人保証にも影響が出るのではと心配します。今回のお話にありましたが、卒業後のフォロー対策についてもご検討いただけますと有難く思います。
- ・どの項目も十分な取り組みがされていると思います。学生さん達が、しっかりと学んで資格を持ち、社会に羽ばたいてほしいです。
- ・学生のうちから給与面の待遇などを就職活動時に知るのではなく、知った上での進路選択できるようなカリキュラムもあって良いかと思われる。卒業生や現場の実習パイザーや、第一線で働く療法士の話聞ける場も実習前にあると、実習に対する取り組み方もかなり変わると思われます。
- ・介護保険制度の成り立ちや、運営状況などを学生の内から学んでおく方が、就職先の幅が広がると思われるし、個々の理解も深まると思われます。
- ・国家資格合格アップをよろしく願いいたします。
- ・在宅支援の大切さも教育していただきたいです。
- ・教育活動で介護福祉学科の医療分野の実習支援ソフトを導入しているとのことであるが、介護福祉士は医療分野に対して苦手意識を持つことが多いため、学生時代から医療福祉に関する学習を強化していく。
- ・学修成果で既卒者に対しての国家試験対策については分からないが、不合格者が増えている現状では、既卒者のフォローアップも充実させていくことが必要と思われる。
- ・学生獲得に向けて多くの高等学校へ積極的に訪問・情報提供を行うなど、大変努力されていることが伝わる良い取組だと思います。今後も継続した取組に期待します。
- ・学生の多国籍化が顕著であり、本来の福祉系の教育機関としての課題以外のところで対策を必要とされてしまうことを懸念しています。
- ・福祉医療の専門教育機関としてのブランド力を高めていき、唯一無二の福祉医療の学校として運営していただきたいです。
- ・従来の問診と身体診察の重要性を再認識し診る力を身につける（気づき）
- ・医学的知識、技術だけでなく、説明能力（国語力）やコミュニケーション能力を養う
- ・卒前教育だけでなく、卒後教育に関連する取り組みも重要だと思います（5年後、10年後を見据えた卒後教育）
- ・国家試験結果の分析は必要ではないか？ どの分野が弱い学生が多いのか、何か得意分野なのかを明らかにする必要がある
- ・学生の社会参加への意識改革や機械の創出に努めていただきたい。入学学生に合った進路指導が必要ではないか（国試全員受験は良いが、適正な進路指導もすべきでは）

#### 4 今後の改善方策

- ①介護福祉士国家試験に係る経過措置が延長されたことにより、5年間とはいえ、不合格となった留学生についても就業継続に関して早急な対応を迫られる状況ではなくなった。しかしながら、根本的な課題が解決されたわけではないため、この経過措置期間を有効に活用し、留学生の国家試験合格率向上に向けたカリキュラムを含む教育システムの構築と、教員の指導力向上に努める。また、本校のブランド力を維持・向上させるためにも、留学生に依存することなく日本人学生を確保できるよう、オープンキャンパスの充実や教員の魅力向上に取り組む。
- ②全学科共通の課題として、国家試験不合格者へのフォロー体制をこれまで以上に充実させ、卒業後の支援を強化する。本人の意思を尊重しつつ登校を促し、モチベーションを維持しながら学習への集中力を継続できるよう支援する。
- ③将来的な取り組みとして、カリキュラムに現場で活躍されている方々による講義を取り入れることを検討する。数年前に卒業したOB・OGや実習指導者から実習前に助言を受ける授業は、本校の特色ある教育の一つになり得ると考える。
- ④現在実施している理学療法学科・作業療法学科の多職種連携教育（碧海看護専門学校との連携）のように、介護福祉学科および国際介護学科においても、医療分野への理解を深める教育内容を取り入れることを検討する。
- ⑤国家試験については、一部の学科で満足のいく結果が得られなかったため、その原因を分析し、今年度は必ず全国平均以上の合格率を達成する。具体的には、数年間にわたり合格率が低迷している理学療法学科への対策と、前述した留学生への支援を重点的に強化する。
- ⑥留学生の増加に伴い、対応する教員にはこれまで以上のマンパワーと指導力が求められている。日本語能力や生活習慣の違いなどによりコミュニケーションに時間を要する場面も多いため、担任一人に負担を集中させるのではなく、学科全体が担任であるという意識を持ち、一人ひとりの学生を継続的に支援していく。
- ⑦対人援助職に従事する人材として必要なコミュニケーション能力を養うため、語彙力をはじめとした表現力の向上にも取り組みたい。一方で、今年度より変更はしたものの、まだ現行カリキュラムは学習量が多く、それが医療・福祉分野への進学離れの一因となっている側面もある。さらに、基礎学力が低下した入学生を国家試験合格レベルまで引き上げる必要があることから、現時点では優先順位を高く設定することは難しいと考える。
- ⑧新カリキュラムでは、療法士として就職すること以外の進路についても可能性を広げている。国家試験については、全員受験・全員合格を目標とすることに変わりはないが、進路の選択肢を一つに限定しないことは、学生の退学防止にもつながるものと考えている。